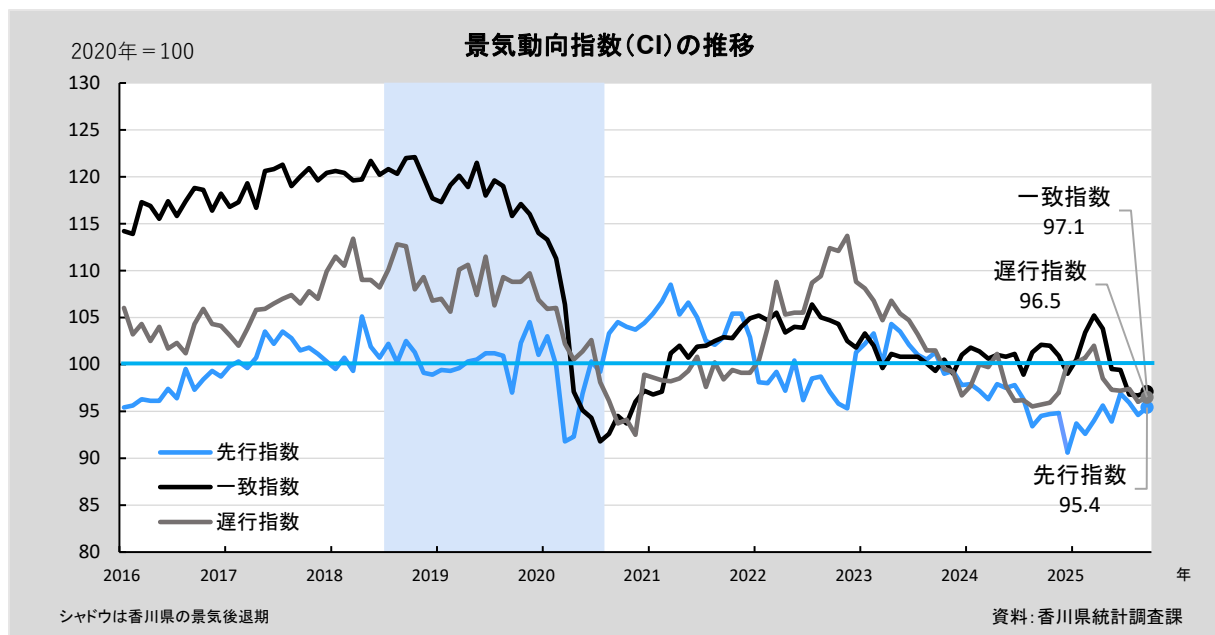


概況	持ち直している。
個人消費	緩やかな増加基調にある。
住宅投資	低調に推移している。
公共投資	持ち直しの動きに弱さがみられる。
生産活動	横ばい圏内の動きとなっている。
雇用情勢	緩やかに持ち直している。
貿易	輸出、輸入ともに減少している。
観光	持ち直しの動きが続いている。

景気動向指数(かがわ CI)

一致指数 6 カ月ぶり上昇



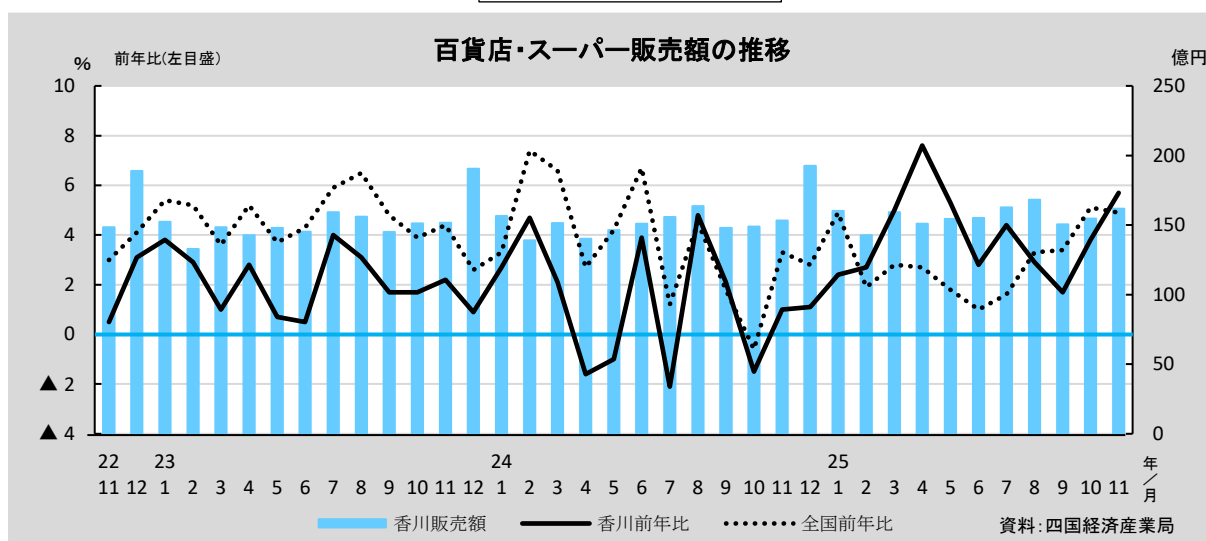
景気の現状をみると、10月のCI一致指数は97.1（前月比+0.4ポイント）と6カ月ぶりに上昇。CI先行指数は95.4（同+0.8ポイント）と3カ月ぶりに上昇。CI遅行指数は96.5（同+0.5ポイント）と2カ月ぶりに上昇。

景気の現状を示す一致系列の個別指標では、所定外労働時間指数、建築着工床面積、百貨店・スーパー既存店販売額等が上昇に寄与し、6カ月ぶりに上昇となった。

先行系列			一致系列			遅行系列		
	寄与度		寄与度			寄与度		
採用 景気 指標	1 新規求人数	0.31	1 雇用保険受給者実人員	▲ 0.35	1 常用雇用指数	▲ 0.33		
	2 乗用車新車登録台数		2 有効求人倍率	▲ 0.56	2 有効求職者数	▲ 0.70		
	3 鉱工業在庫率指数	0.03	3 所定外労働時間指数	0.59	3 消費者物価指数	0.41		
	4 新設住宅着工戸数	0.49	4 鉱工業生産指数	▲ 0.06	4 家計消費支出	▲ 0.61		
	5 金融機関貸出残高	▲ 0.04	5 鉱工業出荷指数	0.12	5 鉱工業在庫指数	0.88		
	6 消費者態度指数	▲ 0.01	6 建築着工床面積	0.38	6 法人事業税調定額	0.66		
			7 百貨店・スーパー既存店販売額	0.28	7 第3次産業活動指数	0.20		

●百貨店・スーパー販売額

13 カ月連続増加 ↑

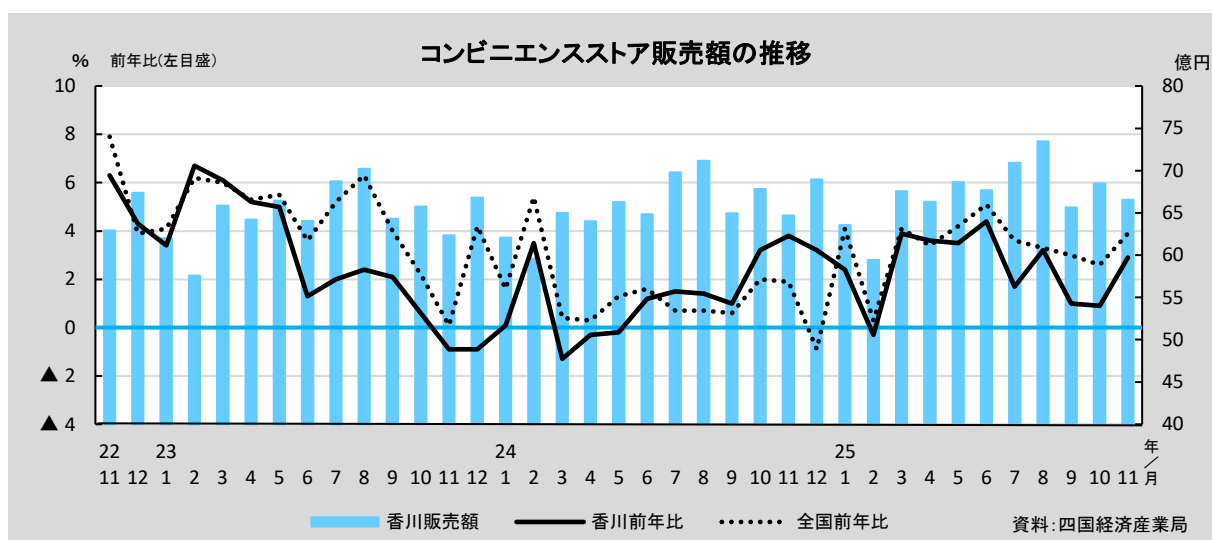


2025/11月	衣料品	身の回り品	飲食料品	家具	家庭用 電気機械器具	家庭用品	その他の商品	食堂・喫茶	合計
販売額(百万円)	1,232	554	11,988	36	53	707	1,613	5	16,188
前年同月比(%)	▲ 1.5	▲ 13.0	7.5	32.1	5.0	1.9	6.9	12.7	5.7

11月の百貨店・スーパー全店（89店）の販売額は161.9億円で、前年同月比+5.7%と13カ月連続で増加した。「飲食料品」は米の高値の継続、歳暮受注の早期化や、冷凍食品・総菜などが好調に推移し同+7.5%、「その他の商品」は高級時計などの高額品、玩具・化粧品などが好調で同+6.9%と前年を上回った。一方、「身の回り品」はインポートバッグや財布の動きが鈍かったことなどから同▲13.0%と減少した。

●コンビニエンスストア販売額

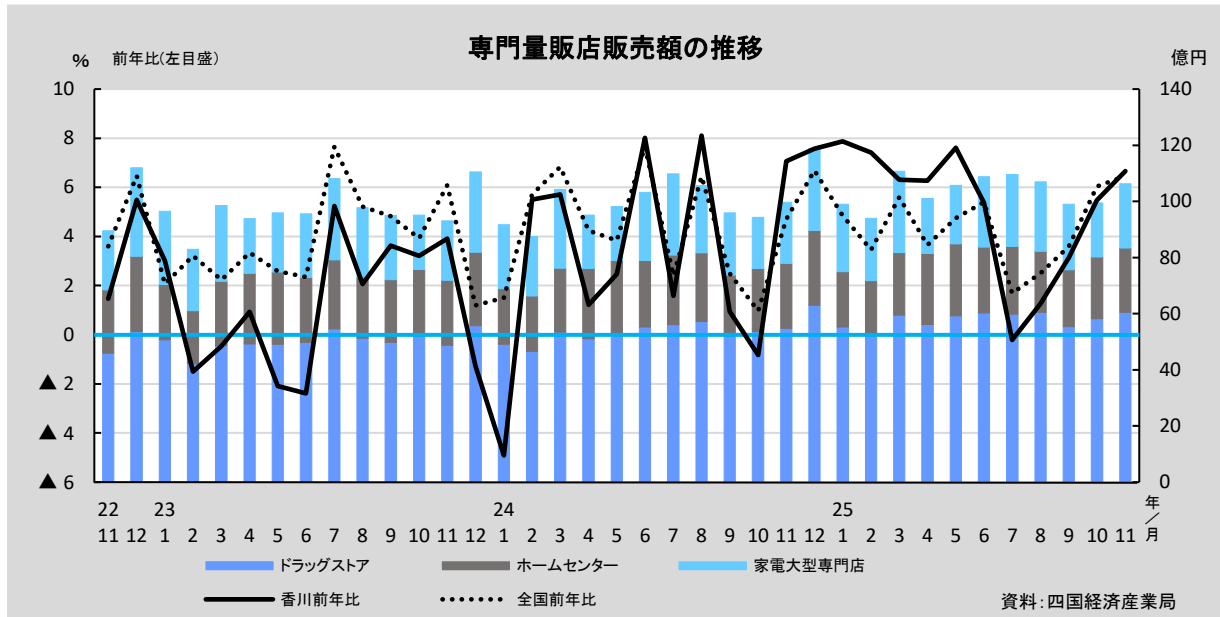
9 カ月連続増加 ↑



11月のコンビニエンスストア全店（407店）の販売額は66.6億円で、前年同月比+2.9%となり、9カ月連続で増加した。

●専門量販店販売額

4 カ月連続増加 ↑

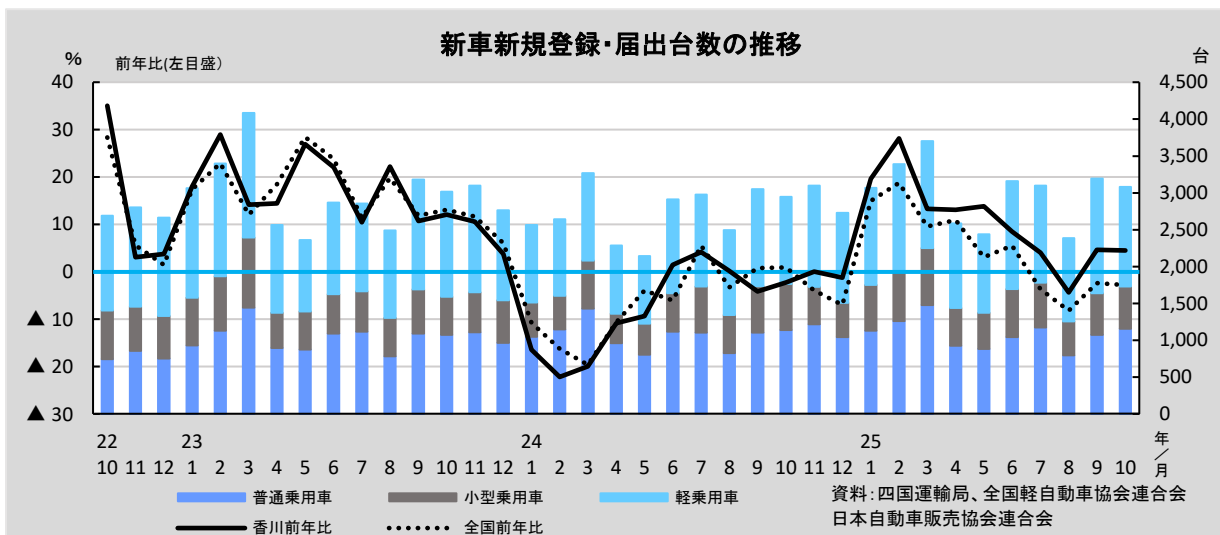


11月の専門量販店全店（237店）の販売額106.3億円で、前年同月比+6.7%と4カ月連続で増加した。

業態別にみると、**家電大型専門店**（27店）の販売額は23.0億円で前年同月比+5.6%となった。**ドラッグストア**（164店）の販売額は、60.5億円で同+10.4%となった。**ホームセンター**（46店）の販売額は、22.8億円で同▲1.3%となった。

●新車新規登録・届出台数

2 カ月連続増加 ↑



10月の乗用車（普通・小型・軽）新車販売台数は3,081台で、前年同月比+4.5%と2カ月連続で増加した。

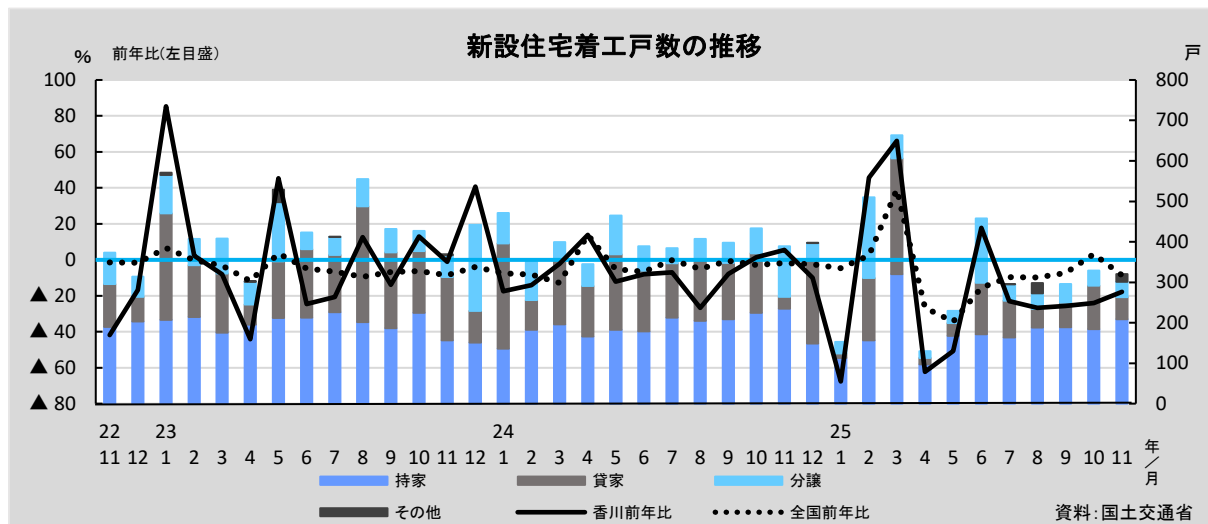
車種別にみると、普通乗用車は前年同月比+1.6%、小型乗用車は同▲8.9%、軽乗用車は同+14.5%となった。

住宅投資

低調に推移している

●新設住宅着工

5 カ月連続減少



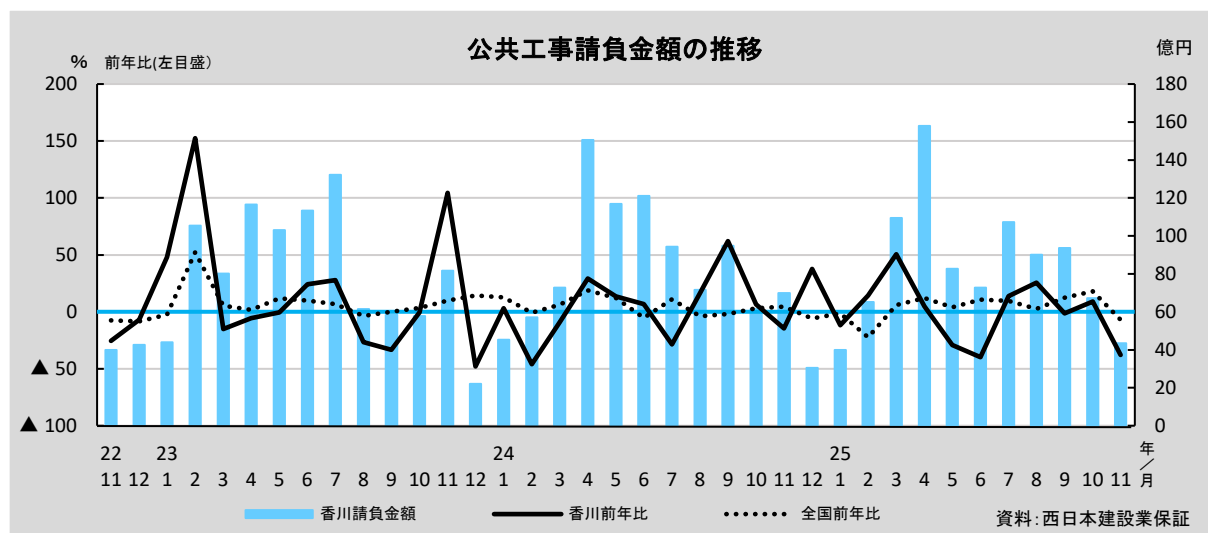
11 月の新設住宅着工戸数は 320 戸で、前年同月比▲17.7%と 5 カ月連続で減少した。利用関係別にみると、**持家**で前年同月比▲11.1%、**貸家**で同+86.2%、**分譲住宅**で同▲69.6%となった。

公共投資

持ち直しの動きに弱さがみられる

●公共工事請負金額

2 カ月ぶり減少



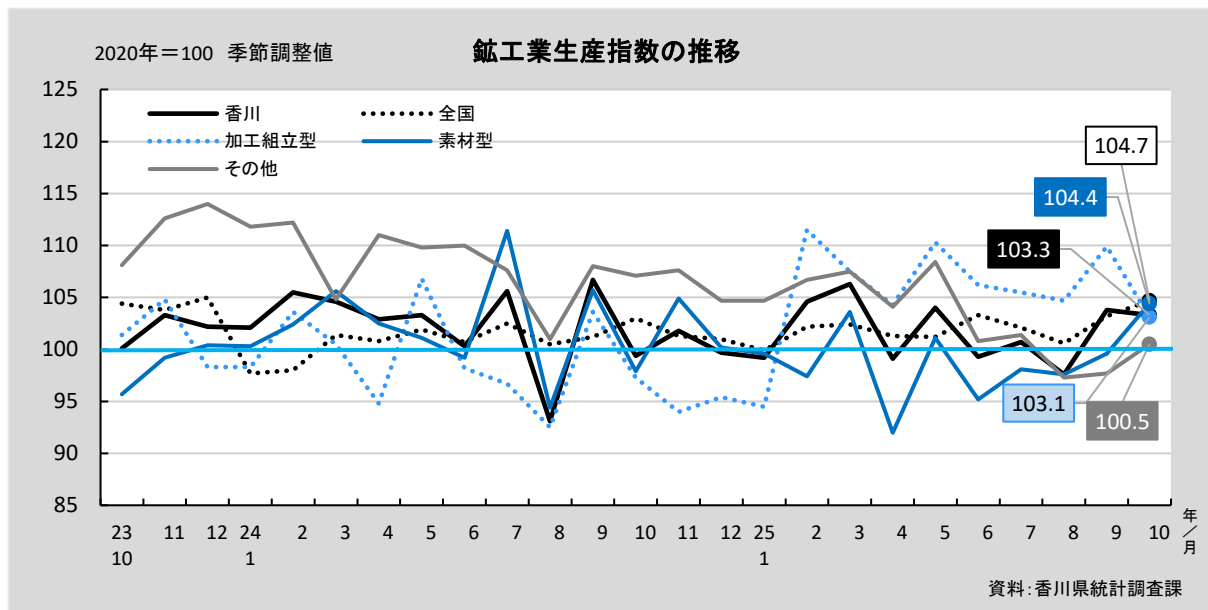
11 月の公共工事請負金額は 43.5 億円で、前年同月比▲37.8%と 2 カ月ぶりに減少した。発注者別にみると、**国・独立行政法人等**で前年同月比+95.1%、**県**で同▲2.6%、**市町**で同▲54.5%となった。2025 年度（4～11 月）の累計では前年同期比▲8.4%と減少している。

生産活動

横ばい圏内の動きとなっている

●鉱工業生産指数

2 カ月ぶり低下



10月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は103.3（前月103.8）となり、2カ月ぶりに低下した。

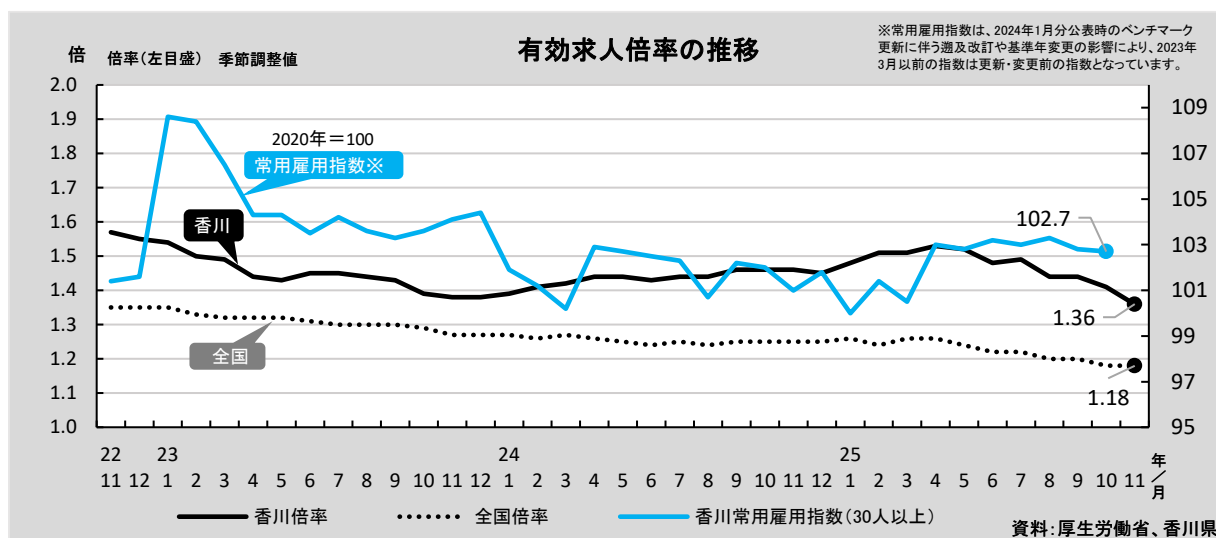
業種別では、加工組立型の輸送機械工業（鋼船など）は前月比▲8.8%、汎用・生産用機械工業（建設用クレーンなど）は同▲3.7%と低下した。一方、素材型の化学・石油石炭製品工業（塩化物など）は同+13.3%と上昇した。

雇用情勢

緩やかに持ち直している

●有効求人倍率

2 カ月連続低下



11月の有効求人倍率（季節調整値）は、1.36倍（全国6位）で前月より0.05ポイント低下した。

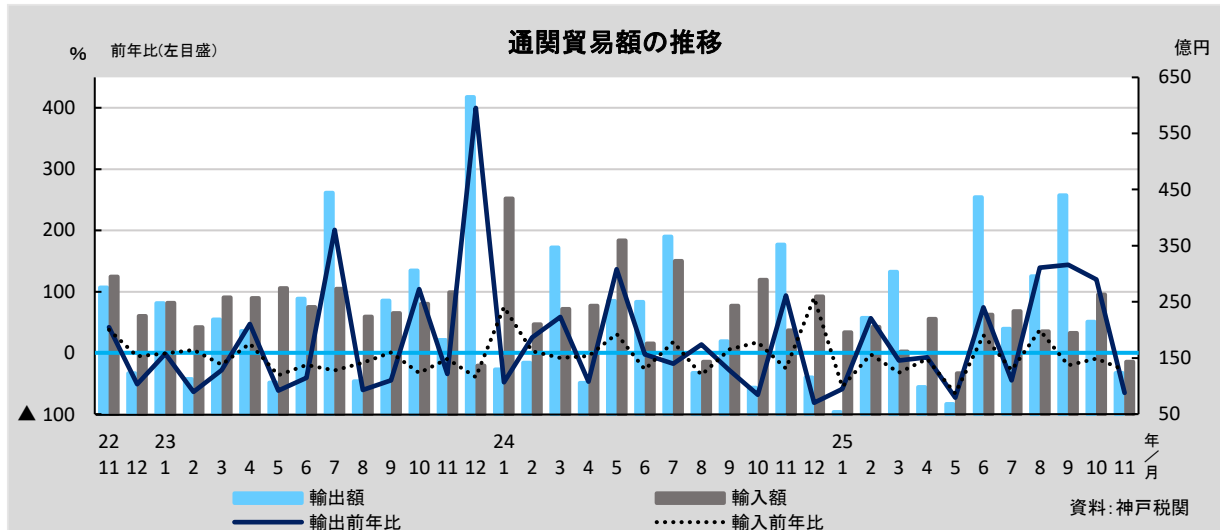
新規求人（原数値：前年同月比）は、医療・福祉、卸売業・小売業、宿泊業・飲食サービス業等で減少となり、全体で▲13.2%と4カ月連続で減少した。

10月の常用雇用指数（事業所規模30人以上）は、102.7となり、前年同月比は+0.7と9カ月連続で増加した。

職業別常用有効求人倍率	倍
専門・技術的職業	2.31
事務的職業	0.61
販売の職業	2.40
サービスの職業	3.06
生産工程の職業	2.46
輸送・機械運転の職業	2.35
建設・採掘の職業	5.89
運搬・清掃・包装等の職業	1.15

貿易

輸出、輸入ともに減少している

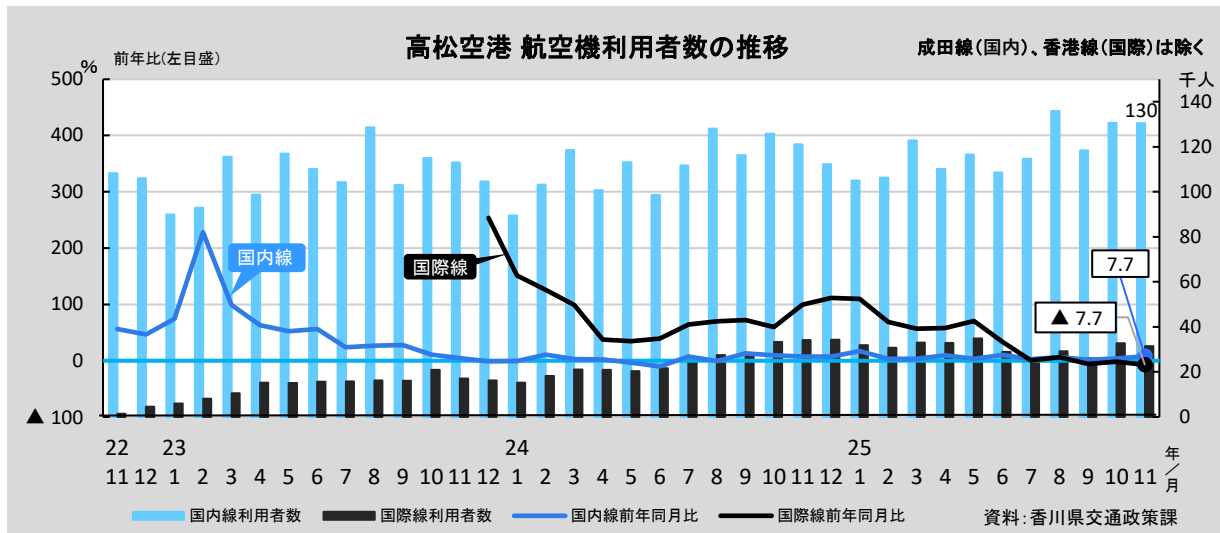


11月の輸出額は前年同月比▲64.9%の123.6億円、輸入額は同▲27.9%の143.6億円となり、差し引き20.0億円の入超となった。輸出は貨物船輸出額が前年同月比▲82.3%の48億円となり減少に寄与した。輸入は前年34億円だった液化石油ガス輸入額がゼロとなり減少に寄与した。

交通

国内線は15カ月連続増加、国際線は3カ月連続減少

●高松空港旅客輸送実績



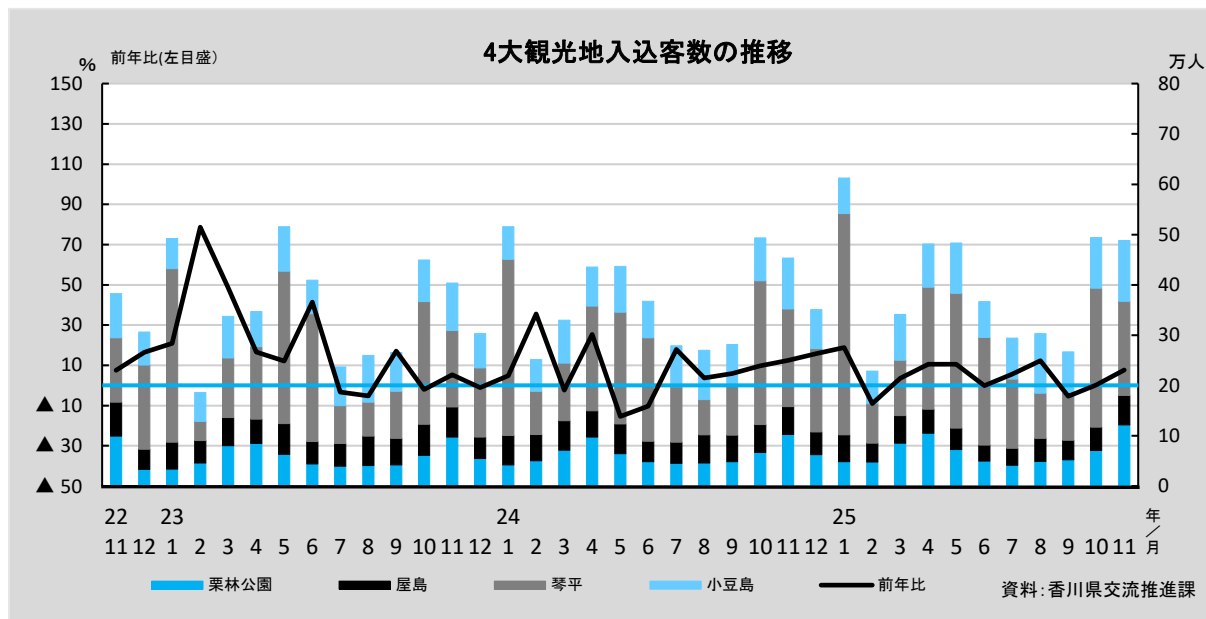
11月の航空機利用者数は、国内線(羽田・那覇線)が130,444人(前年同月比+7.7%)となり、15カ月連続で増加した。羽田線は121,463人(同+7.7%)、那覇線は8,981人(同+7.1%)となった。

国際線は、ソウル線17,421人(同▲21.6%)、上海線4,172人(同▲20.4%)、台北線9,899人(同+48.8%)で合計31,492人(同▲7.7%)と3カ月連続で減少した。

観 光

持ち直しの動きが続いている

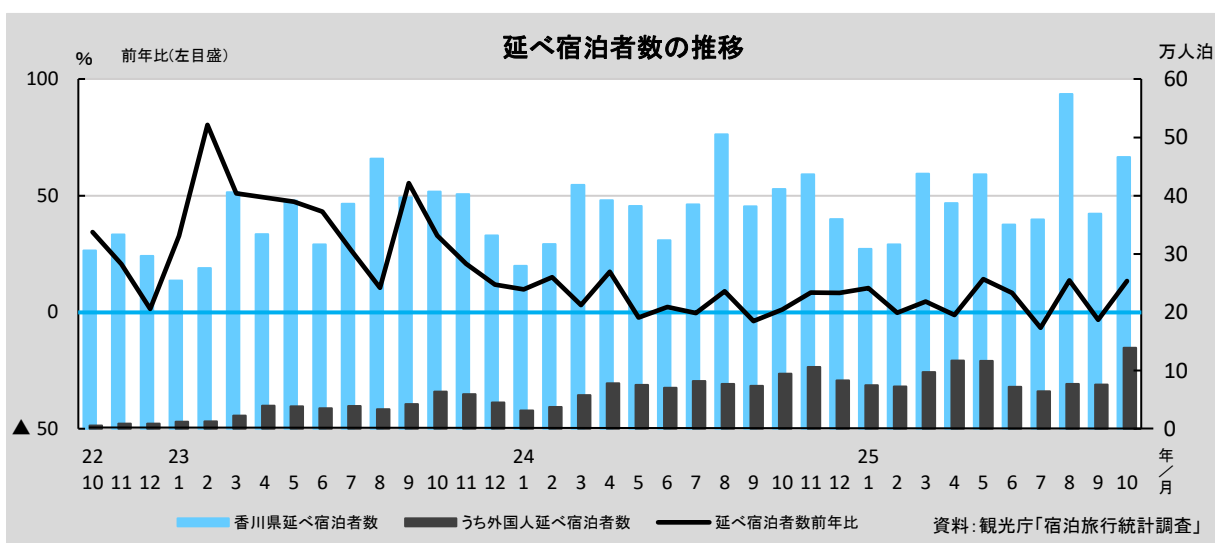
●主要観光地入込客数



観光地入込客数		栗林公園		屋島		琴平		小豆島		合計	
11月(人)	前年同月比	121,866	18.6%	58,389	5.7%	187,000	▲3.6%	121,317	19.7%	488,572	7.8%
1~11月累計(人)		745,289	9.1%	491,139	▲15.8%	2,136,000	9.8%	988,884	9.6%	4,361,312	6.0%

11月の主要観光地の入込客数は、前年同月比+7.8%と2カ月連続で増加した。栗林公園は前年同月比+18.6%、屋島は同+5.7%、小豆島は同+19.7%と増加した。一方、琴平は同▲3.6%と減少した。2025年(1~11月)の累計では前年同期比+6.0%と増加している。

●延べ宿泊者数



10月の延べ宿泊者数 466,410 人泊で、前年同月比+13.3%と2カ月ぶりに増加した。うち、外国人延べ宿泊者数は 138,950 人泊となり、前年同月比+47.0%と3カ月連続で増加した。